

『地の利、生かし進出促す

島根県産業技術移転で成果



産業高度化をバツクアツブ

島根県産業技術センターは1880年(明治13)5月、島根県勧業展示場として発足。130年にわたり、県内中小企業の技術向上に寄与している。基本的な業務は他県の公設試験研究機関同様、研究業務や技術支援、機器の開発など。同センターのユニークな活動は、こうした「従来型」の支援業務に加え、テーマごとの5つのプロジェクトチームを設けていることだ。県の産業政策と密接に連携しながら、研究開発、新工法開発、新工法開発などを進め、県内産業を力強く支援する。2012年度から新たな島根県研究開発戦略などを6つの戦略を立て、研究開発、人材育成、財産戦略などを定めた。島根県産業技術センターは、多くのプロジェクトを設けて研究開発を推進(松江市)。

広島県立総合技術研究所 6戦略定め研究

01年には本場をテクノアーチュームへ移転。研究開発の5プロジェクトを動かしている。各プロジェクトの進展状況はまち

鳥根県産業技術センターは1880年(明治13)5月、島根県勧業展示場として発足。130年にわたり、県内中小企業の技術向上に寄与している。基本的な業務は他県の公設試験研究機関同様、研究業務や技術支援、機器の開発など。同センターのユニークな活動は、こうした「従来型」の支援業務に加え、テーマごとの5つのプロジェクトチームを設けていることだ。県の産業政策と密接に連携しながら、研究開発、新工法開発、新工法開発などを進め、県内産業を力強く支援する。2012年度から新たな島根県研究開発戦略などを6つの戦略を立て、研究開発、人材育成、財産戦略などを定めた。島根県産業技術センターは、多くのプロジェクトを設けて研究開発を推進(松江市)。



広島県三次市は県営三次工業団地(Ⅲ期)への企業誘致を最重要課題と位置付け、増田和俊市長が先頭に立った説話を展開している。新たに上水道供給量を3倍に創設して、企業に立地を働きかけ。同工業団地は中国地方の中開通予定の中国横断自動車道のクロスポイントにある。高速交通網の整備で、中国地方から四国地方まで取り込める分譲面積は3区画で8万3000平方メートルだが、大型立地には1区画にすることも可能だ。

誘致対象業種の拡大を狙つて、上水道の供給量を日量3000トンから10000トンと3倍に引き上げた。合わせて水道料金も年間1500万円を上限に10年間半額助成する。食料品製造などの用水型業種も誘致可能になった。排水は日本海に流れ、瀬戸内海の環境規制の対象外になつていて、活動を展開している。増田市長は企業誘致による自然災害の比較的小ない中国地域の利点が再評価されている。中国・四国地域各自治体の企業誘致戦略と、進出企業を支える存在である公設試験研究機関を紹介する。

三次市 次回 常業 県工 用水型業種誘致可能に 上水供給3倍、料金助成も

中国地域、四国地域ともに工場立地が増加に転じている。11年12月実績で中国地域は件数が5年ぶり、敷地面積は4年ぶりに前年比増で伸び率は全国トップとなった。四国も件数、面積とも3年ぶりに増加している。中國経済産業局の調べでは、中国地域の選定理由として自然災害に対するリスク分散をあげる企業が複数あつたといふ。自然災害の比較的小ない中国地域の利点が再評価されている。中国・四国地域各自治体の企業誘致戦略と、進出企業を支える存在である公設試験研究機関を紹介する。

モノづくりサポート 企業立地 & 公設試

首都圏から立地促進

津山産業・流通センター 優遇制度を整備



庄原工業団地 交通利便性一段アップ

岡山県津市は、津山産業・流通センターへの企業誘致に力を入れている。岡山県は、自らの自然災害のリスクが低く、特に注目されている。

岡山県津市は、津山産業・流通センターへの企業誘致に力を入れている。岡山県は、自らの自然災害のリスクが低く、特に注目されている。

津山産業・流通センターは、津山市街地と院庄ICとの距離であり、日帰りの出張

動車道の庄原インターチェンジと三次インターチェンジ(建設中)のほぼ中間にあります。庄原市は、庄原工業団地を所有する。総面積8万3000平方メートルの団地には、建機のリース会社や家具製造会社など8社が進出済みで、庄原市は残る2万8000平方メートルの完売を目指す。

庄原工業団地は、中国横断自動車道・院庄インターチェンジまで約2キロ、関西方面へは2時間程度の距離であり、日帰りの出張

電力供給に対する不安も少ないといふ。東日本大震災による庄原市は、庄原工業団地として企業立地の候補地として特に注目されている。

津山産業・流通センターは、津山市街地と院庄ICとの距離であり、日帰りの出張

電力供給に対する不安も少ないといふ。東日本大震災による庄原市は、庄原工業団地として企業立地の候補地として特に注目されている。

津山産業・流通センターは、津山市街地と院庄ICとの距離であり、日帰りの出張

電力供給に対する不安も少ないといふ。東日本大震災による庄原市は、庄原工業団地として企業立地の候補地として特に注目されている。

津山産業・流通センターは、津山市街地と院庄ICとの距離であり、日帰りの出張

電力供給に対する不安も少ないといふ。東日本大震災による庄原市は、庄原工業団地として企業立地の候補地として特に注目されている。

5年後の成果目標に、戦略研究

境連携などをあげる。

結果

としている。

立地促進

が可能だ。

また岡山空港まで約6割の距離で飛行機を利用すれば、首都圏へのアクセスも短時間で済む。

現在、約6割の分譲地が残っている。市は完売のため、重要課題として2011年度から優遇制度の拡充に取り組んでおり、定められた条件を満たせば、土地取得にかかる費用の30%を奨励金として助成する。これに加えた特

別加算制度も導入した。12年度からは岡山県の東京事務所に1名の津山市職員を派遣し、首都圏からの企業誘致構策にも力を注いでいる。

津山産業・流通センターは、津山市街地と院庄ICとの距離であり、日帰りの出張

電力供給に対する不安も少ないといふ。東日本大震災による庄原市は、庄原工業団地として企業立地の候補地として特に注目されている。

津山産業・流通センターは、津山市街地と院庄ICとの距離であり、日帰りの出張

電力供給に対する不安も少ないといふ。東日本大震災による庄原市は、庄原工業団地として企業立地の候補地として特に注目されている。